



地下鉄短信 (第656号) 令和7年10月17日発行

編集 (一社)日本地下鉄協会 責任者 橋田慶司

電話 03-5577-5182(代) FAX 03-5577-5187



記事 ○第32回鉄道フェスティバルに出展しました。

○第32回鉄道フェスティバルに出展しました。

・



10月14日の「鉄道の日」は、明治5年に新橋・横浜間に初めて鉄道が開通したことを記念して平成6年に制定され、今年は32回目となります。その中心行事の一つとして「鉄道フェスティバル」が都内で行われており、今年は、10月11日(土)・12日(日)の2日間開催されました。本フェスティバルは、令和元年は台風19号により、同2年及び3年は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止となり、4年も新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、ステージプログラムや物販・飲食類の販売等は中止となり展示中心で開催されました。2年前からは、本フェスティバルの会場が、日比谷公園から、江東区の国際展示場近隣のお台場イーストプロムナード「石と光の広場」「花の広場」に移り、コロナ禍前の形で開催されるようになりました。スペースも日比谷公園よりかなり広くなり、今年は鉄道会社・団体を中心に約80社余が出展しました。

◆盛会となったフェスティバルの開催

初日の11日(土)は、台風22号の影響のため終日雨となりましたが、鉄道ファンのみならず多くの家族連れが長蛇の列をつくって開場を待っていて、午前10時の開始の放送の合図で、各鉄道会社の物販ブースの前には鉄道ファンが殺到していました。

初日の来場者数は21,000人、2日目の12日(日)は36,000人と2日間で57,000の方がご来場されました。昨年は初日46,000人、2日目は39,000人と、2日間で85,000の方がご来場されたことに比べ、今年は初日が生憎の雨であったこともあり3割減となりました。新型コロナ前の平成30年開催時は2日間で15万人の入場があったことに比べればまだ少なめではありましたが、例年楽しみにされている熱烈的な鉄道ファンがお集まりいただき、盛会なフェスティバルとなりました。



◆会員事業者の紹介ポスターの掲出・パンフレットの配布



当協会のブースでは、協会スタッフが従前どおりのピンク色のウィンドブレーカーを着用して来場者の方々をお迎えしました。従来のように会員各社局ごとに創業・誕生の経緯や現在の重点事業、また最新の車両写真やバリアフリー化の推進状況等創意工夫された内容のポスターを作成し、テントの壁一面に掲出し、熱心な鉄道ファンが多く訪れ、ポスターに見入っていました。上記のポスターのほか、大阪メトロ様及び名古屋市交通局からご提供いただいたチラシ・パンフレットも配布し、来場者の多くが興味をもたれ、持ち帰っていただきました。

◆協会グッズの配布

協会では、地下鉄を利用する際のマナーをイラストなどで楽しく学ぶことができるリーフレット「電車のマナー(すごろく付)」等を、会員31社局の車両前面写真をプリントしたプラスチック製クリアファイルに挿入して、ブースに来られたお子様に各日1000部ずつ配付しました。両日とも予定した部数がお昼過ぎには配付終了となるほどの好評でした。また、ブース内に入られたお子様には「電車のマナー」内に載っているクイズに挑戦してもらい、地下鉄に興味を持ちながら楽しんでいただきました。



◆リニアモーター台車の模型等の展示



また、今回も当協会の保有しているリニアモーター台車(Aタイプ)の模型を展示いたしました。この模型を見てJR東海において建設されているリニアモーターカー(マグレブ)との違いを多く質問されたことから、両モーターの構造の違いをわかりやすく比較して説明したポスターも作成し・掲示しました。併せて、初代の銀座線や丸ノ内線の電車の模型も展示し、大人だけでなく多くの子供達も興味深く眺めたり写真を撮り、職員も驚くような専門的な質問をする大勢の子供ファンに会うことができました。

最後に、この「第32回鉄道フェスティバル」等の開催につきましては、会員各社局等の皆様からの多大なるご支援ご協力を賜り、改めて厚く御礼申し上げます。